

令和 8 年

雲南市議会 9 月定例会 一般質問通告一覧表

【一般質問日程 令和 8 年 9 月 4 日～9 月 8 日】

令和 8 年雲南市議会 9 月定例会 一般質問通告一覧表 目次

順番	日程	議席番号／氏名	質問方式	ページ	順番	日程	議員番号／氏名	質問方式	ページ	
1	9/4(金) 9 時 30 分～	12／梶谷 佳平	一問一答	1～3	11	9/8(火) 9 時 30 分～	4／福間 守	一問一答	24～26	
2		13／上代 和美	一問一答	3～5	12		1／竹部 貴博	一問一答	26～27	
3	9/4(金) 13 時 00 分～	6／廣野 祐二	一問一答	5～8	13	9/8(火) 13 時 00 分～	15／中村 辰眞	一問一答	27～30	
4		2／原 良太	一問一答	8～9						
5		5／石原 忍	一問一答	9～12						
6	9/7(月) 9 時 30 分～	17／佐藤 隆司	一問一答	12～13						
7		14／中林 孝	一問一答	13～15						
8	9/7(月) 13 時 00 分～	9／高橋美佐子	一問一答	15～17						
9		10／多賀 法華	一問一答	18～21						
10		3／吾郷 希穂	一問一答	21～24						

令和 8 年雲南市議会 9 月定例会 一般質問通告一覧表

令和 8 年 8 月 27 日

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
1	12	梶谷 佳平 (一問一答)	1. 防衛施設の誘致について 2. 子育て支援について	(1)防衛施設誘致と「平和を」の都市宣言との整合性について 防衛施設の誘致について、要望・陳情を受け、中国四国防衛局に「防衛施設整備に関する国の考え方」について調査された。防衛省は、現時点で雲南地域への施設整備計画は無いとの回答であったが、「雲南市としては、引き続き情報収集をする。」としている。石飛市長は、防衛施設誘致について研究するにあたり、この「平和を」の都市宣言との整合性をどのように考えているのか伺う。 (2)防衛省から現時点で雲南地域への施設整備計画は無いと明確な回答受けながら、「雲南市としては、引き続き情報収集をする。」とあるが、どのような目的でどのような情報を収集しようとしているのか伺う。 (1)小学生対象の放課後児童クラブで“待機児童・不許可児童”が生じている。幼稚園、保育所、認定こども園等の時には、夕方まで預かってもらえたが、小学校入学と同時に放課後児童クラブで、待機児童・不許可児童が生じ保護者は困っている。申請者に寄り添った対応として、“待機児童・不許可児童”の解消が必要ではないか伺う。 (2)待機児童・不許可児童が生ずる原因は何か。なぜ 100%の受け入れができないのか伺う。 (3)各幼稚園、保育所、認定こども園等に放課後児童クラブを設置できないか伺う。 (4)放課後児童クラブでは、同じスペースに“遊んでいる子と勉強したい子”が混在し、勉強に集中できない。施設整備と体制強化が必	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			3. 所有者不明の猫・犬対策について 4. 雲南市立病院について 5. 下水道事業について	要ではないか伺う。 (1) 市民への対応について ① 市内では所有者不明の猫等が増え市民は困っている。市の対応策について伺う。 ② 所有者不明猫等の捕獲作業や避妊・去勢手術費用は、捕獲した市民の負担となっているが手術費は年々高額化している。手術費用の支援が必要と思うが見解を伺う。 (1) 医療体制について ① 医師・看護師不足への対応と今後の増員計画について伺う。 ② 雲南市立病院は、雲南地域の中核的な病院として運営され、地域医療を支える責務を担っている。現在、医師 1 名で対応しているが産婦人科において、出産対応は 24 時間体制と思う。医師への健康サポート体制、出産される方へのサポート体制について伺う。 (2) 奨学金について ① 過去に奨学金制度があったと聞く。なぜ廃止になったのか伺う。 ② 医師・看護師獲得に向け、医療を志す学生に対して奨学金制度の設立が必要ではないか。条件として、雲南市立病院での勤務期間は、奨学金の返済を免除する制度化設立について伺う。 (1) 受益面積について 雲南市公共下水道事業受益者負担に関する条例第 4 条にある、公告された区域内の“受益面積の範囲”とは何を指すのか伺う。 (2) 徴収方法の違いについて ① 条例の第 6 条別表 2 において、市内での負担金徴収方法が、加茂町・大東町は一括納付、木次町・三刀屋町は約 5 年の分割納付とあ	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				る。その異なる理由を伺う。 ②条例施行規則第 6 条第 2 項において、木次町・三刀屋町の受益者は 5 年分を一括前納(前納負担金)した場合、前払いに伴う報償金交付制度がある。その異なる理由を伺う。 ③下水道事業以外の条例等において、各町で異なる条例等はないか伺う。	
2	13	上代 和美 (一問一答)	1. 自衛隊施設誘致について 2. 農業問題について	(1)6 月定例会一般質問の答弁で、「自衛隊施設誘致要望について調査・研究する」と述べられ、先般、総務常任委員会で中国四国防衛局への聞き取り調査状況について説明があった。市民に調査状況について分かり易く説明されたい。(補助金、交付金を含めて) (2)防衛省の考えとして、「現時点で、雲南地域への施設設置の計画はない」との回答をうけている以上、市民を分断するような誘致について、市として「誘致は困難であるし、すべきではない」とはっきり表明すべきではないか。市長の見解を求める。 (3)誘致推進の立場から「ヘリポートや小規模演習場など可能性のある施設」の例示についても中国四国防衛局に聴き取られたが「国としては、要望できそうな施設を例示する立場にはない」との回答であった。市は、今後も引き続き情報収集を行っていくとのことだが、市として、今後どのようなものを想定して情報を収集していく考えか、市長の見解を求める。 (1)8 月 24 日、2026 年産米の「概算金」(コシヒカリ 1 等米 60 kg 当たり)を 1 万 6 千円にする方針との JA しまねの発表があった。2025 年産米は 2 万 8,400 円であり、43.7%もの減となった。需給バランスを市場にまかせ、米価を決める国の農政では、生産意欲がそがれ離	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			3. 防災について	農する農家が増える。国が責任をもって、需給と価格の安定を図ることが必要と考えるが市長の見解を求める。 (2) 高齢化が進み、今回のように 43.7%もの生産者米価の下落で離農者が増えれば、農村地域の崩壊と食糧自給率の一層の低下を招きかねない。日本は食糧危機の瀬戸際に立っているとの指摘もある。コストに見合い、農家が安心して再生産できる価格保障と地域の農地維持により国土を守り、鳥獣被害を防ぎ多面的な機能を守るために全ての農家への所得補償を国に求めるべきではないか。市長の見解を求める。 (3) 食料危機が起きないためにも、農業予算を抜本的に増やし、国の責任で消費者には安く、生産者には安心して再生産が行われるようにすべきだ。国が積極財政を言うなら、農業予算にこそ回すべきである。市長の見解を求める。 (1) 雲南市地域防災計画の震災対策編では、本市における地震被害想定は主にマグニチュード 7.3 規模の糸道湖南方の地震の影響が最も大きいと考えられるが、どのような規模を想定し、どのような備えが必要になるか、また課題として考えられることは何か、伺う。 (2) 地震はいつ何時起こるかわからない。今回の熊本地震のように真夏に起こる可能性もある。避難所となる学校体育館へのエアコン設置を年次計画的に進めるべきではないか。市長の見解を求める。 (3) 災害後に起きる人災を防がなければならない。特に、関連死はあってはならない。イタリアでは国・自治体・ボランティアなどが協力して、トイレ、キッチン、ベッドを 48 時間以内に行き渡るようにする「TKB48」というシステムで対応している。自然災害は避けるこ	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				とはできないが、人災が起こらないよう被害想定も念頭に入れ、平時より備えを万全にしておくべきと考えるが見解を求める。 (4) 市民の防災意識を高めるためにも、また。いざ災害が起こった時に、どこにどのような防災備品が用意されているのか周知するためにも、市のホームページに各公共施設(本庁、総合センター、交流センター)に置かれている備品が分かるようにすべきと考えるが、見解を伺う。	
3	6	廣野 祐二 (一問一答)	1. 農業委員等の推薦と地域自主組織との基本協定のあり方について 2. 防災対策について	(1) 全国農業委員会職員協議会が令和3年6月に発行した「新制度の農業委員会に関するQ&A」によると、「農業委員の推薦・募集にあたり、区域を設定することは適当ではない。」とされているが、現在の農業委員の推薦を地域自主組織に依頼することは、区域を設定して推薦することに当たらないか、見解を伺う。 (2) 農業委員の中の中立委員は、長い間、大東地区から推薦されていると聞いている。特定の区域からの選出に対する市民の不信感など問題視されているが、改善を検討されているか伺う。 (3) 市と地域自主組織との基本協定により、農業委員等や民生委員・児童委員を推薦することが必須業務となっており、そのことが、地域の大きな負担感につながっていることは承知しているか伺う。 (4) なぜ、農業委員・農地利用最適化推進委員や民生委員・児童委員の推薦を地域自主組織に依頼する協定ができたか、その経緯を伺う。 (5) 農業委員や民生委員・児童委員を地域自主組織から推薦することは、大変な負担になっている事実から、その方針を変更すべきだと思うが、見解を伺う。 今年も、例年のように、猛暑が続いた。この様な中で、今年も、複	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			て	数の災害が起こり、災害は、いつどこで、どのような規模で起こるか分からない状況である。又、地震等による災害の関連死が、80%を超える例もあることから、避難所等における環境の整備は、ますます重要度を増していると考えられる。この様な状況の中、特に猛暑時の対策について伺う。 (1)雲南市には、指定避難所及び指定緊急避難場所が 84 か所、指定福祉避難所が 24 か所あるが、その収容人数は、6 町別で、人口の何%程度になり、最近の様な猛暑時の対策ができている避難所は何か所あり、収容人数の何%程度か伺う。 (2)猛暑時の対策(エアコン等)ができていない避難所、例えば体育館等について、どのような対策を考えているか伺う。 (3)特に体育館等については、たくさんの健常者等を収容することが推定されるが、猛暑時の避難で、エアコンがないと、二次災害が起こることが懸念される。今後、教育的見地と災害対応を含め、学校の体育館へのエアコン設置を検討すべきだと思うが、見解を伺う。 (4)学校等の体育館へのエアコン設置は、かなりの金額が想定されることから、国への財政措置を求めるよう進言することが重要と考えるが、市長の見解を伺う。 (5)幸い現在は、すべての学校の教室には、エアコンが設置されている。これらを有効に利用することは、計画されているか伺う。 (6)特に、猛暑時の被災者の水分補給は重要であり、このことは、飲用水の供給はもとより、十分なトイレが必要である。仮設トイレや簡易トイレは、十分に準備されているか伺う。 (7)地域の防災力を高めるため、自助・共助・協働を原則として重要	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			3. 尾原ダムの役割 について	な役割を果たすのが、防災士と理解している。雲南市には、防災士が現在何名登録されており、組織的な動きはあるか伺う。 2012年に尾原ダムが完成して、約14年が経過した。洪水調節、河川環境の保全、水道水の供給等の目的のために、地元の111戸の住民が移転を余儀なくされるという犠牲のもとに、年月を重ねている。このダムの完成やその他の施策により、毎年のように繰り返される、豪雨や渇水期の対策においても、その下流域には、様々な恩恵をもたらしている。移転された地元住民の思いをつなぐためにも、この地域の衰退を招かないよう「地域に開かれたダム」として、現在でも、様々なイベントや活動等が行われている。 この様な状況の中、国土交通省では、治水機能の強化と水力発電の促進を両立させる「ハイブリッドダム」の取組みとして、尾原ダムへの水力発電設備の設置が決定され、本年7月には、島根県企業局との基本協定が締結された。 (1)島根県企業局は、「取組のすべてを、地域への貢献と県民サービスへ還元」をコンセプトに、地域と連携しながら水源地域等の振興を目指す取り組みを行うとされているが、その中で、「地元への交付金の交付」については、年間いくら位が見込まれているか伺う。 (2)今回の事業の取組みのなかで、「斐伊川水道料金低減」が示されているが、尾原ダムの存在自体が、斐伊川下流域へ安定的に水を供給するという恩恵を与えていることを考えると、いささか疑問に思うが、市長の見解を伺う。 (3)水力発電設備の設置は、島根県企業局が行われることとなったが、今後、雲南市との連携はどのようなことが考えられるか伺う。	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				(4)「地域に開かれたダム」として、地元では、様々な活動が行われており、その中で、ダム湖周辺の一部未整備の歩道整備の要望が出ているが、その方向性はどうか伺う。	
4	2	原 良太 (一問一答)	1. 旧市街地の空洞 化対策について 2. 地域計画の推進 を求める質問	(1)市は現在の土地開発公社をどのような役割を担う組織として評価しているのか。 (2)公社の令和7年に作成された経営計画では『市街地再整備』という公社の役割が示されている。この役割を、市はどのように評価しているのか。また、これは公社独自の経営上の方向性として示されたものなのか、それとも市としても、公社に担ってもらう役割として共有しているものなのか。 (3)市として、土地開発公社の経営計画に示された、市街地の面的な再整備を実際に進めていく意思はあるのか。あるとすれば、市と公社はどのように連携し事業を進めていくのか。 (1)令和8年3月末における本市の担い手への農地集積率は何%となっているのか。また、これまでの集積率の推移と、今後どの程度までの集積率を目標としているのか、併せて伺う。 (2)本市では、地域計画に基づく農地の集積・集約化を進めるため、農道・水路・圃場等の農業生産基盤整備を今後どのように進めていくのか。また、農地の集積・集約化を進めるため、現在どのような予算措置を講じているのか。併せて、地域計画に位置付けられた地区や農地について、基盤整備の優先順位付けを行う等、計画と予算を連動させる考えがあるのか伺う。 (3)市は、農用地区域を設定する本来の目的をどのように認識しているのか。	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			3. 市内高校の統合 について	(4) 地域計画と農用地区域の設定を連動させていく必要性はないか。そもそも農用地区域そのものの全体的な再点検を行う時期に来ているのではないか。 (5) 地域計画において鳥獣被害防止対策を位置付けた地区については、国・県の補助制度や市単独制度を積極的に活用していくべきであるとするが市の見解は。 高校の適正規模を考える際、単純な生徒数や学級数だけではなく、習熟度別・進路別の授業、専門教育、部活動など、生徒がどのような教育機会を得られるかという観点から検討する必要があると考える。県が高校再編を具体的に検討する前に、雲南市として『これからの雲南市の高校教育に必要な機能』を整理し、県と協議する考えはないか。	
5	5	石原 忍	1. 中山間地域における介護サービスについて	(1) 介護保険サービスの見直しに向けて、社会福祉法等の一部を改正する法律が示され、具体的な改正内容が審議されている。その中で、小規模市町村における包括的な支援体制の整備を促進する事業を新設するとともに、地域住民の支援等を検討する会議を全市町村で設置できるようにすることや、特定地域サービス、特定地域居宅サービス等事業の創設として、中山間・人口減少地域において、地域の実情に応じた配置基準や包括的な評価の仕組みを導入できる特例介護サービスの類型(特定地域サービス)の新設。また、地域のサービス提供主体が少ない場合に、市町村が事業として居宅介護サービス等を実施できる「特定地域居宅サービス等事業」を創設する。あわせて、事業者間の連携強化や事業継続の仕組みを構築。介護予防・地域の支え合いの推進に向けた拠点機能の強化として、介護予防と	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			2. 自治体立病院の 令和 7 年度決算状 況について	地域の支え合いを一体的に実施する拠点事業を新設するなどがあるが、この改正内容についての見解を伺う。 (2) 国における介護事業の大規模化や共同化が進められる中で、雲南地域においても介護事業における協働の取り組みが始まっており、先般、雲南市社会福祉協議会、特定非営利活動法人やわらぎ、株式会社コミュニティーケア、株式会社チャット・ケアすずらんの 4 者において、介護人材の育成や自然災害発生時の対応、地域貢献などを目的に連携協定が締結された。この連携は、介護サービスの充実に向けて大変大きな一歩であると思うが、この連携が今後有意義なものになっていくためには、行政のしっかりとしたバックアップが必要であると思うが、市長の見解を伺う。 (3) 介護職員の処遇改善について、介護分野の職員の他職種と遜色のない処遇改善に向けて、令和 8 年度改定において、処遇改善加算の対象を介護従事者に拡大、生産性向上等に取り組む事業者に対する上乘せの加算区分の創設、処遇改善加算の対象外だった訪問看護、訪問リハビリ、居宅介護支援等への処遇改善加算の新設などが設けられたが、これだけでは他職種と遜色ない改善にはなっていないのが現実であると思う。市としても現状を十分把握した上で、処遇改善に向けた更なる支援をする必要があると思うが、市長の見解を伺う。 (1) 自治体立病院の経営は大変厳しい状況にあり、令和 7 年度決算においても速報値で全国の約 83%の病院が経常赤字の決算状況にある。県内の自治体立病院についても債務超過に陥る可能性もある病院も出始めており、構成自治体からの病院に対する繰出金も増加し	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			3. 防衛施設誘致要望への対応について	ている。この状況について市長の認識と見解について伺う。 (2) 雲南圏域の中核病院である雲南市立病院の経営状況についても厳しい状況にあるが、その中でも令和 7 年度決算では、病床利用率が 83.3%、一般病床の入院単価は 47,828 円、外来の単価も 1 万円を超えており、相当な努力が感じとれる。しかし、必死の頑張りにも現状の物価高騰などの実態の中では限界があり、健全経営を図るためには行政の支援が必要不可欠である。全国的には、地方公共団体からの自治体病院に対する繰出金は、令和 6 年度 4,712 億円から令和 7 年度 5,157 億円であり、対前年度比 9.4%の増額が図られている。 一方で、市立病院に対する雲南市からの繰出金は、令和 7 年度の収益的収支(3 条予算)に対する比率は 10.6%であり、令和 6 年度より 0.7%の減となっている。 この繰出金の比率については、全国平均が 14.3%(R6 決算)、全国の類似病院が 17.0%(R6 決算)、県平均は 17.5%であり、市立病院に対する繰出金は医業収益に対する比率からも相当低い状況にある。市長はこの状況をしっかりと認識し、地域医療を守り支える立場からも一般会計からの繰出金を全国平均並みに増額すべきと考えるが、市長の見解を伺う。 (1) 防衛施設の誘致については、誘致推進派と反対派からそれぞれ要望・陳情が提出されており、その状況を受けて調査を始めるとされたが、現在の調査状況について伺う。 (2) 自衛隊施設誘致推進派からの要望事項では、「自衛隊施設の誘致を地域振興策の一策として検討して欲しい」、「火薬庫や弾薬庫の誘	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				致ではない(小規模な訓練場やヘリポートを想定)とある。しかし、防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律や施行令では、特定防衛施設周辺整備調整交付金の対象となるのは、大規模な弾薬庫、砲撃が実施される試験場、飛行場その他大規模な防衛施設であって、回転翼航空機の離陸又は着陸が頻繁に実施されるもの等となっており、小規模な訓練場では交付対象にはならず、地域振興策には繋がらないと考えるが、見解を伺う。 (3) 中国四国防衛局と意見交換された際、「現段階では雲南地域への施設設置の計画はない」とのことであった状況や、島根県内には交付金対象施設は無く、交付対象とするには相当大規模な施設や弾薬庫の整備が必要となることなどから、早い段階で施設誘致はしないと表明すべきと考えるが、市長の見解を伺う。	
6	17	佐藤 隆司 (一問一答)	1. 特定地域づくり 事業協同組合制度 の新たな展開につ いて	(1) 6月の一般質問で「都市×地方」農業事業者の誘致・二拠点農業の共生型農地維持モデルについて質問した。農業の担い手や人手不足の対応策として、特定地域づくり事業協同組合制度が活用できないのか聞く。 ① 農業事業者の誘致・二拠点農業は、これまでの実証段階、水管理や除草管理また稲刈りシーズンを迎える段階でスムーズに取り組まれているのか。 ② 「協同組合ワークアラウンドうんなん」の成果と今後の課題は。 ③ 「都市×地方×特定地域づくり事業協同組合」の可能性は。 ④ 市長の描かれる「農地管理を担う組織の新設と農業振興」とは、特定地域づくり事業協同組合制度を更に活用することで実現できるのではないかと思うが見解は。	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			2. 雲南市学校給食センターの在り方について 3. 「サマーレビュー」について	(1) 雲南市学校給食センターの施設・調理機器等の老朽化に伴い、統廃合も視野に入れての在り方の検討について諮問された。 ①令和7年11月6日第1回運営委員会と今回8月7日に諮問された雲南市学校給食運営委員会の違いは。 ②令和7年11月18日教育民生常任委員会で示されたスケジュールとの整合性は。 ③施設・調理機器等の老朽化の現状は。 ④大東・加茂給食センターの建替え、または大規模修繕の考えは。 ⑤5年後の2031年(令和13年)推定提供食数は。 ⑥統廃合の可能性の考えは。 ⑦中央学校給食センターは、供用開始時から課題・問題(一般駐車場及び配送車両駐車場)が指摘されていたがどのように整理され、検証されているのか。 ⑧その課題や問題に対して今後の対応の必要性の認識は。 (1) 市長施政方針では「試行的に新規拡充事業、見直し・スクラップ事業などの政策判断を要する案件について「サマーレビュー」により具体的な歳出削減を図る」とされた。 ①これまでの、施策評価や事務事業評価との違いは。 ②透明性を持って具体的に行い結果を出すことが求められるがどう進めるのか。 ③身の丈に合ったスリムな予算規模にしていくためには、厳しい切り込みの判断が必要だが、目標設定はされているのか。	
7	14	中林 孝 (一問一答)	1. 地域自主組織について	(1) 地域自主組織(以下、自主組織)の目的とは何か、目的に照らして機能しているか。	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				①一人一票制とは何か、機能しているか。 ②地域要望、市長要望を出しても進展がない、という声が多い。声にどう応えるか。 ③自主組織は市との連携協定に基づく業務に忙殺され過ぎていないか。 ④総合センターと連携は十分か、総合センターと自主組織の関係はどうあるべきか。 ⑤防災拠点としての機能は果たされているか。 ⑥活動の責任はだれが負うか。 (2) 自主組織は持続可能な組織か。 ①自主組織に交付する交付金の原資、財源に課題や問題はないか。 ②自主組織が独自に確保する自主財源についての見解を伺う。 ③自主組織の会費に問題はないか。 ④自主組織の担い手・人材の確保はできるか。処遇は十分といえるか。 ⑤自主組織は若者世代にも必要とされる組織か。 (3) 自主組織では規模の大小、地域内の高齢化率など異なる条件の組織が混在している。 ①条件により活動内容が大きく異なる。それぞれに市は何を望み、何を支援するか。 ②自主組織により市民一人当たりの受益度が異なる。見解を伺う。 ③小学校区単位が目安とされてきたが、現状の認識と将来への展望を伺う。 (4) 現行制度を見直す考えはないか。見直すとすればどういう点に着	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			2. あらどげんになったについて	目して進めるか。 (1) 令和7年度のふるさと納税額はいくらか。委託業者を変更した効果はあったか。 (2) 森林環境譲与税の使途を林業振興に直接寄与するよう見直す考えはないか。	
8	9	高橋美佐子 (一問一答)	1. 改正食糧法の成立と農業政策について	7月8日に改正食糧法が成立し、国は米の安定供給に向けた新たな制度を整備した。しかし、食料安全保障を支えるのは制度だけでなく、実際に米を生産する地域農業である。特に中山間地域では、生産者の減少や水田の維持が大きな課題になっており、本市においても、地域農業を将来につなげるための具体的な施策が求められている。 そこで本市の農業施策について質問する。 (1) 改正食糧法への市の認識 改正食糧法では、米の安定供給が求められている。この改正をどのように受け止め、本市の農業政策へどのように反映していく考えか伺う。 (2) 水田維持について 中山間地域では、水田を維持すること自体が困難になっている。食料安全保障の観点から水田維持をどのように支援して行くのか伺う。 (3) 担い手対策 米の安定供給には、生産者の確保が不可欠だ。新規就農者や若手農業者への支援をどのように強化していく考えか伺う。 (4) 有機農業との連携	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			2. 農業労働災害共済制度と農作業事故防止について	①本市ではコウノトリとの共生や有機農業を進めている。今回の改正食糧法を踏まえ、有機米の生産拡大やブランド化をどのように進めていくのか伺う。 ②コウノトリとの共生をまちづくりの柱に捉え、市の鳥にも指定することで市民の誇りやブランド化に繋げている。豊かな自然環境や生物多様性を生かしたまちづくりを進める考えはあるのか伺う。 ③コウノトリが暮らせる環境は、生物多様性に富み、安全・安心な農業の証でもある。環境保全型農業やブランド化をどのように進めていく考えか伺う。 農業は、市民の食を支えるだけではなく、豊かな自然や農地を守り、地域コミュニティを維持する上でもなくてはならない産業である。その一方で、農業の現場には常に危険が伴い、特に、トラクターやコンバインなどの農業機械による事故、農地や農道での転倒転落、草刈り作業中の事故など農作業中の事故は時として重篤なけがや死亡事故に繋がる。本市は中山間地域が多く、傾斜地や狭い農道など農作業を行う上で厳しい環境もあり、さらに、農業者の高齢化が進む中で農作業事故をいかに防ぎ、農業者の命と生活を守っていくかは、本市としても重要な課題であると考えている。本市には、農業労働災害共済制度があり、農林業の作業中に発生した人身事故に対して共済金を給付することで、農業者を支える役割を果たしている。この制度は、事故が発生した後の生活を支える大切な制度だ。この制度によって把握された事故の状況や原因を、今後事故を起こさないための取り組みに生かしていくことが重要ではないかと考える。	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				(1) 農業労働災害共済制度の現状について 現在の加入者数、加入率、過去 5 年間の事故件数、共済金の給付件数、及び給付額についてどのような状況となっているのか。また発生した事故について、農業機械による事故、転倒転落、草刈り作業中の事故など、事故の種類や原因について雲南市は把握し、分析しているのか伺う。 (2) 制度の周知と加入促進について どれだけ優れた制度であっても、農業者に十分に知られていなければ必要な時に利用することができない。未加入者に対して、どのような加入促進を行っているか、JA、農業委員会、集落営農組織などと連携して、加入促進をする考えはないか伺う。 (3) 農作業事故の実態と事故防止対策について 本市では、どのような農作業事故が発生しているのか。トラクター、コンバイン、草刈機などの農業機械による事故をどのように把握しているか。また、高齢農業者の事故防止についてどのような対策を考えているのか、安全講習会や農業機械の安全点検などをさらに充実できないか伺う。 (4) 共済制度と農作業事故防止の連携について ① 共済制度による事故後の補償と事故を起こさないための予防とを一体的に取り組む考えはないのか、また発生した事故の原因を分析し今後の事故防止に活用できないか、補償と予防を両輪として雲南市独自の農業安全対策を進める考えはないのか伺う。 ② 農道や水路、法面など危険個所の点検、改善について雲南市はどのように取り組んでおられるのか伺う。	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
9	10	多賀 法華 (一問一答)	1. 学校の在り方について 2. 部活動の地域展開について	市内の学校の在り方について、それぞれの学校ごとで考えるだけでなく「子どもたちにとって、これからどのような教育環境が必要なのか」「地域にとって学校はどのような役割を果たすのか」「将来のまちづくりに学校をどう位置付けるのか」など大きな視点から考えることが重要である。児童・生徒や保護者、地域、教職員など、関係者それぞれの立場から意見を出し合い、対話を重ねながら将来の学校の姿を共に考えることが、納得感のある学校の在り方につながると思うが、市はどのように考えているか。 (1)教育委員会内に部活動の地域展開の担当を配置され、キラキラ雲南と一緒に運営を担われていると思う。学校の状況や種目ごとに特性があり、各学校、部活動ごとに丁寧にすすめていかないと地域展開は難しいと考える。現在の人員配置、それぞれの役割や報告・連絡・相談体制は十分か。 (2)現在様々な課題があるかと思うが、令和7年12月の教育民生常任委員会で、令和6年度 of 取組から把握した課題と令和7年度の主な取組、今後についての説明があった。 ①施設使用に関する課題はどのように解消されたか。新たに課題はないか。 ②連絡手段に関する課題はどのように解消されたか。スGRAMを使用されていると説明を受けたが、指導者や保護者、生徒の感想は把握しているか。新たに課題はないか。 ③周囲の理解促進に関する課題はどのように解消されたか。新たに課題はないか。 (3)年間を通して展開がすすむと、気候などに左右されると考える。	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				学校部活動では使えるものや施設が、地域クラブの時は使えなくなるものがある。例えば、夏場、製氷機の利用ができるかできないかでは影響が大きいと思うが、季節に応じて出てくる課題はどのようなものが考えられ、どのように対応されるか。学校ごとに環境が異なると思うので各学校について、屋内競技、屋外競技それぞれについて伺う。 (4) 今後、平日も地域展開がすすんでくると、指導者は働いておられる方が多いと思われるので就業後に指導にあたられることになると思う。令和 11 年度には平日の地域展開も検討されるのであれば、さまざまな課題がでてくると思うが、現状予測ができることで、今後何か対応を考えているか。以下うかがう。 ① 学校の終了時間からその時間までの空き時間をどうするか。三刀屋では保護者さんの働きかけなどがあって、交流センターで居場所をつくれ助かっていると声を聞いているが、他でもそのようなことが今後考えられる。どのように対応できるか。 ② 平日も地域展開した場合、送迎はどのように考えるか。活動したい生徒は校区外の活動に参加できる環境を整備する必要があると思うがいかがか。 ③ 地域展開は国の政策であり、市が主導で行うものとする。 (3) の質問でも少しふれたように、地域クラブになると部室や学校施設や備品が使えなくなる。学校の働き方改革もしなければならぬのだから、市がリーダーシップを発揮し、学校の責任ではなく市として学校施設をもう少し柔軟に使えないか。例えば部室のカギや備品管理を市が責任を持てないのか。	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				④全ての部活動が平日も地域展開になれば、施設の確保が必要。例えば日が早く暮れる時期になれば、現在の部活動より始まる時間が遅くなると、特にグラウンドを使った部活はナイター設備がないと活動が難しい。市内の社会教育施設や旧学校などを柔軟に使用できること、多方面での協力が必要であると考えるが、どのように対応するか。 ⑤学校の卒業アルバムはどうなるか。部活動ではなくなると学校の卒業アルバムには掲載されなくなる可能性がある。地域展開が部活動の延長と考えるなら何らかの形で記録に残すことはできないか。 (5)吹奏楽部の地域展開について、現在、教育委員会が考える今後の吹奏楽部の地域展開の理想の姿を伺う。 (6)新潟県佐渡市では、全生徒に土日の部活動がなくなったらというアンケートをとられたとのこと。アンケートで一番多かったのが、「土日何もしたくない。家で休みたい。」というのが53%。ついで多かったのが、「学校部活動と同じことをしたい。」このアンケート結果から、従来の部活とは違ったかたちの体験型のエンジョイ型と学校部活動と同じ種目を通年で取り組めるスキップ型の2つをつくられている。大阪府大東市では、生徒や保護者に意見を聞き、従来の部活動の枠にとらわれない形で、全ての子どもたちが自身のやりたいことをできるように検討されていた。雲南市では、どのように生徒や保護者のニーズを収集されたか、その結果はどのようなものだったかうかがう。 (7)特に文化系については、リモート講師という形も考えられる。オンラインで学校をつなげての部活も考えられる。市としてはどのよ	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				うに考えるか。またその場合学校施設は使えるか。 (8)現在、指導者バンクの充実をはかられていると思うが、文化協会にも指導者バンクへの登録の呼びかけをしてはどうか。 (9)活動費についてうかがう。活動費の寄附などの検討はされているか。例えば、ふるさと納税で、「子どもたちのスポーツ・文化活動を未来につなぐ！雲南市部活動地域展開応援プロジェクト」などのようなタイトルで、寄附の使い道を明確にして募るなどできないか。またお金でなくても、練習着や道具に寄附者の名前を入れて現物支給することもできるかもしれない。以前の質問でもあったが、部活動でなくなったため中学校後援会から、活動に対しての補助がなくなった例もある。一定程度方向性をそろえたり、何かしら活動費について集める手段は持ったりすべきではないか。 (10)部活動の地域展開は、まちづくりの新しいチャレンジ、チャンスでもある。部活動が地域に展開されることで、子どもから大人まで一緒になった活動が展開されていく可能性がある。また、今までであれば、その部活動に精通した先生が学校にいるかいらないか、異動があったらどうなるかという課題があったが、地域展開をすればその地域での活動が継続されることになる。子どもが地域の大人に教わることや地域の大人と一緒にチームで活動することは、将来地域の指導者を目指したり、卒業後もチームのメンバーを継続できたりすることができるようになる。現在は過渡期で様々な課題があり、その都度対応していく必要はあるが、長期的なビジョンが地域や指導者とはかられているかうかがう。	
10	3	吾郷 希穂	1. 雲南市立病院の	熊本地震において県と連携し、雲南市立病院から災害派遣医療チ	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
		(一問一答)	災害支援の取り組みについて 2. 雲南市立病院の病床数変更について 3. 雲南市立病院のDX化の取り組み状況について 4. 給食センターの現状と、今後の在り方について	ーム DMAT チームが派遣され支援を行った。 (1) 今回 3 日間の DMAT 派遣であったがどのような活動を行ったのか。 (2) 今までの取り組みが生かされた事は特にどのような事だったか。またさらなる今後の支援向上に向け課題を感じたところがあったか。 (3) 令和 6 年度より災害支援ナースの養成、研修を行ったとあるが、災害時にどのような活動をするのか。 教育民生常任委員会において、医療安全管理体制の強化と看護職員の負担軽減及び医療資源の有効活用を図るため、病床の一部を削減し、病床数の適正化を図るとの報告があった。 (1) 急性期病床を合計 2 室 8 床の削減だが医療安全上問題は本当ではないか。 (2) 今後の人口推移と少子化を踏まえ、さらなる病床数の削減を図る検討があるか。 雲南市立病院の基本実施計画の中に、令和 5 年 AI 問診を導入。そして令和 7 年度以降は AI 問診の導入診療科を拡充。さらに令和 8 年度中の生成 AI の導入を検討と、ある。 (1) DX 化の進行状況はどうか。 現在給食センターは 3 施設、2 つの事業者に民間委託している。大東給食センターは平成 16 年建築で 22 年経過。加茂給食センターは平成 15 年建築 23 年経過。中央給食センターは木次にあり令和元年に建設され 8 年目を迎えている。教育民生常任委員会においての説明では、雲南市学校給食運営委員会が設立され、教育長から給食センターの在り方と、民間委託についての評価、給食費について検討	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			5. 不登校支援について	する旨が諮問された。 (1) 雲南市の学校給食センターの統廃合も合わせて検討。ということだが今後の考えは。 (2) 現在は2つの事業者民間委託しているが、現時点での事業者の評価と、今後はどのように考えるか。 (3) 令和7年度以前は委託契約が3年間であったが令和7年度4月1日から5年間の委託契約に変更になったのはどういう理由からか。 文部科学省の調査によると、小・中学校の不登校児童生徒数は過去最多の35万3,970人となり12年連続で増加している。当市の不登校児童生徒数は令和7年、小学生57名、中学生73名の合計130名ということである。 (1) 130名とされる不登校児童生徒数は、長期間欠席を伴っていない不登校(等)に分類される児童生徒数も合わせた人数か。そうでなかった場合は全体で何人程か把握されているか。 (2) 不登校児童生徒で学校内外の機関等で専門的な相談や指導等を受けていない児童生徒の割合は約3割。不登校児童生徒の約5割が教育支援センター（おんせんキャンパス）と繋がっている。残りの2割の児童生徒はどんな状況か把握しているか。 (3) おんせんキャンパスの現時点での利用状況(利用人数、稼働率)と、さらなる児童生徒の受入れは可能か。 (4) 市内3校に設置されている校内教育支援センター「ほっとルーム」はどんなものか。またほっとルームの運営が始まって2年。現時点での問題・課題は。 (5) 国の不登校対策が拡充され、県での議論がされた。雲南市として	

[illegible]

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			3. 農地と地域を守るための農業政策について	において、市としてどのような準備が必要と考えているか。 (2)「訪問系サービスの非効率性」は中山間地域では避けて通れない。都市部と同じ仕組みで介護サービスを維持することには限界があるのではないか。特に訪問介護などについて、移動距離や移動時間が事業所の経営を圧迫するという構造的な問題を、市はどのように捉えているか。 (3)家族の介護能力の低下などの状況を踏まえると、「住み慣れた地域で暮らし続ける」という理念を実現するためには、家族介護を前提としない介護サービス提供体制を整えていく必要があるのではないか。	
			4. 自衛隊施設誘致	(1)今年は降雨が少なく、河川や水路の水量が減少し、出穂期に農業用水の確保に苦慮する農業者が生じた。中には、別の水路や河川からポンプで水をくみ上げ、燃料費を負担して対応した農業者もいる。市は、今年の農業用水不足の状況をどのように把握しているか。 (2)気温上昇や降雨量、積雪量など、農業を取り巻く自然環境が変化している。こうした環境変化が、今後の農業に与える影響を市はどのように認識しているか。 (3)中山間地域の農業は、高齢の農業者の努力によって支えている。このまま、担い手の高齢化と離農が進めば、農地の荒廃が進み、農業そのものが維持できなくなるのではないか。 (4)農業を支えている方々が営農を続けられるよう、農地が維持されるように、国の制度に加えて市としても積極的に支える必要があるのではないか。	
				(1)令和8年3月定例会で自衛隊施設の誘致について質問した。その	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			と地域の将来について	後、この問題を取り巻く状況はどのように変化しているか。 (2) 自衛隊施設の誘致が、雲南市にどのようなメリットがあると考えているのか。 (3) この問題が地域の分断を招く可能性について指摘した。実際に地域の中で意見が分かれている状況をどのように認識しているか。 (4) 行政の役割は、単に市民の自由な言論、議論の場を保障することではなく、市民が安心して暮らし続けられる地域を守ることにあると考える。現在の状況を総合的に判断したとき、市長は、「自衛隊施設の誘致を市として進めるべきではない」と判断しないのか。	
12	1	竹部 貴博 (一問一答)	1. 空き家対策の強化について	人口減少や高齢化、相続等に伴い、今後さらに空き家の増加が見込まれる中、空き家の適正管理と利活用は、本市における重要な課題の一つである。 本市では、空き家バンクや空き家情報マッチング制度などを活用し、空き家の売買・賃貸による流通促進に取り組んでいるが、所有者の中には、「売却することには抵抗がある」「すぐに譲渡する決断はできない」「賃貸だけでは将来的な管理や相続に不安がある」といった事情から、空き家の処分や利活用に踏み切れないケースもあると考える。 (1) 空き家バンクや空き家情報マッチング制度等による売買・賃貸の実績について、これまでの取組みをどのように評価しているのか。 また、空き家所有者が売却や賃貸に踏み切れない要因を、市としてどのように把握しているのか伺う。 (2) 空き家バンク等を活用した空き家の流通・利活用について、現在の登録件数、成約件数、移住・定住につながった実績をどのように	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				評価しているのか。また、所有者が空き家を登録・売却・賃貸する際の課題を市はどのように捉えているのか。 (3)譲渡付賃貸を活用することで、移住やUターン希望者、若者、子育て世帯などが、一定期間その住宅や地域で暮らした上で、将来的な住宅取得につなげられる可能性がある。譲渡付賃貸を活用することについて考えを伺う。 (4)現在の空き家への対策だけではなく、今後空き家になる可能性が高い住宅を早期に把握し、所有者が元気なうちから売却・賃貸・相続・管理等について考える対策も重要である。市として、将来的に空き家となる可能性のある所有者への情報提供や相談支援など、予防的な空き家対策について所見を伺う。 (5)空き家対策を単なる老朽空き家の除却や管理の問題として捉えるのではなく、移住・定住、若者の住宅確保、起業・創業、地域コミュニティの維持、地域経済の活性化などと、一体的に進めることが重要と考える。 今後、庁内横断的な取組みや民間事業者との連携を強化し、空き家活用を本市の人口減少対策・地域振興の柱の一つとして位置づける考えはあるか、市長の所見を伺う。	
13	15	中村 辰眞 (一問一答)	1. AI 活用について	(1)執行部における AI 活用について ①市役所の業務として AI の使用を禁止している業務はあるか。 ②一般質問に対する答弁書作成で活用された事はあるのか。 (2)小中学校の AI 利用について ①小中学校での AI 利用の現状はどのようなになっているのか。 ②児童生徒がタブレットを家庭で使用する際の制限はあるのか。	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			2. 平和に対する考 え方や取組につい て	③児童生徒の AI 利用については学力向上と低下の両論があるが、教育委員会としてどのような分析がされているのか。 (1) 追悼式典等における弔意文の表現について 6 月 23 日沖縄全戦没者追悼式典での総理大臣の言葉、7 月 3 日に開催された雲南市戦没者追悼式の市長と議長の追悼文に関して一部の表現に微妙な違いがあるように感じた。 どれの表現が正しく、どの表現が間違っているかを問うのではなく、それぞれ言葉に込められた追悼の思いを大切にする意味において平和を常に希求していく事を願い続けた永井隆博士の故郷である本市首長の見解を確認したい。 ①日本全国で無差別的に空襲が行われ、硫黄島や沖縄に代表される戦地における一般の人々を巻き込み、2 つの原子爆弾により多くの無力の人々の命を奪っていった連合軍の無差別的攻撃で、日本の国力は低下する中、お国のためと戦地におもむき、史上最悪の作戦「特攻」の任についた兵士が、モールス信号を使い任務遂行の最後の瞬間まで監視されていた。この悲しい事実を市長は知っていたのか私見を伺う。 ②沖縄全戦没者追悼式での追悼の言葉で総理大臣は「今日、私たちが享受している平和と繁栄はこの地で命を落とされた方々の尊い犠牲と、沖縄の歩んだ筆舌に尽くしがたい苦難の歴史の上に築かれたものです」と述べられ、市長は 7 月 3 日雲南市戦没者追悼式での追悼の言葉は「顧みますと、多くの尊い命が失われた先の大戦の終結から、今年で 81 年目を迎えました」で始まり、途中「今日の日本の繁栄が、戦没者の方々の尊い犠牲と、ご遺族の皆様のたゆまぬ努力	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			3. 熊本地震被災地に学ぶ市内体育館の猛暑酷暑日の対策と稼働状況改善について	の上に築かれていることを、私たちは改めて深く心に刻まなければなりません」と述べられている。同追悼式典で議長は、「戦没者の方々が、かけがえのない命を以って示された戦争の悲惨さと平和の尊さを深く心に刻み、未来を担う次の世代へ語り継ぎ」と語られた。この3種の表現について、正誤を問うものではないがそれぞれの表現に対する市長の見解を伺う。 (2) 永井隆記念館での平和教育について 先日、公明党出雲総支部〔出雲市・雲南市・奥出雲町・飯南町(議員不在)〕の議員で永井隆記念館を見学した。その時に出雲市・奥出雲町の議員から「永井隆記念館で出雲市や奥出雲町のこどもたちも平和学習ができるといいね」との声が出た。それぞれの自治体の考え方もあるものと思うが、本市の教育委員会が旗振り役となり、近隣の市町に対して積極的に永井隆記念館への誘致をうながせないか。例えば奥出雲町からは木次線を利用し木次駅からは、日中待機状態のスクールバスを利用し永井隆記念館へのルートが出来ないか見解を伺う。 (1) 7月28日に発災した熊本地震。猛暑、酷暑の中での避難生活において過酷な環境と避難先での多くの問題点があることに気づかされた。本市でも参考としなければならないことは、以前から問題視されている避難所指定の体育館。熊本においては政府が独自に300台のエアコンをプッシュ型支援として送り出したが、受け入れ先の電気供給状況の確認がされてなく、届いたエアコンが設置できない状況があったといわれている。本市ではエアコン設置はせず、スポットクーラーをリースするとの答弁が過去にある。体育館の規模に	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				より収容人員は変化する。避難所とされる体育館の収容人員に対して必要となるスポットクーラー数。そのスポットクーラーを稼働させるだけの電力とコンセントの確保。単純にスポットクーラーのレンタルというが広域的な災害時に確実に確保できる保証など、避難所設営計画は立ててあるのか伺う。 (2)松江市にある県立はつらつ体育館には、エアコンを設置している。雲南市の体育館ではアスパルのアリーナを除きエアコンが設置してある体育館はないと認識している。今建設が考えられている体育館は掛合体育館である。これを県と市と共同で建設に向かうことができればエアコン常設も可能ではないかとする市民の声があった。単純な話ではないと思うが一つの案として考えても良いのではと思うが見解を伺う。 (3)昨今の気象状況において夏に「熱中症アラート」が発令される可能性は多くなると考える。このままでは夏にスポーツを行うことが雲南市では不可能となると考えるが、状況打開に対しての見解を伺う。	